

## 『学級・授業の荒れ』についての考察

—— 教師・生徒の調査結果から ——

○深谷昌志（東京成徳短期大学）

○深谷和子（東京成徳大学）

○三枝恵子（埼玉県立松山高校）

土橋 稔（世田谷区立東玉川小学校）

亀澤信一（稲城市立稲城第五中学校）

## 1. はじめに

近年「キレる」を中心とした、生徒の荒れる様々な現象が起きている。それと前後する形で小学校での「学級崩壊」がメディアを通して問題提起された。チャイムが鳴っても教室に入らない、授業中教室内をウロウロしている、教師の指示に従わないなど授業の成立していない様子が報道されている。確かに授業中に私語が多く授業が中断されたり、先生の指示に従わない、質問されても答えない、教室を出たり入ったりする生徒が増え授業がしにくい状況になっていることは事実である。

しかし、教師たちによれば、報道されている「崩壊」という言葉で連想されるほど授業が荒れているわけでもないと聞く。では、教師が「授業ができない、困難だ」というのはどのような状況をさすのだろうか。

そこで、本調査では、授業中の生徒の様子や授業ができない体験などを教師に尋ねると同時に報道されているような「崩壊」がどのくらいあるのかや教師の悩みや努力していることなどから、授業ができない実態とその背景を明らかしようとしたものである。分析では、「荒れ」を3段階に分けてとらえる見方を提示し、数値を通してその妥当性も検討した。

## 2. 調査対象と方法

## 調査対象

教師調査は東京都の教員名簿からランダムにサンプリングし、各2500名を抽出し、直接郵送し回答を得た。有効サンプル数は小

学校520名、中学校569名、合計1089名、回収率は小学校20.8%、中学校22.8%であった。生徒調査は東京都内の中学生381名、学校通しの質問紙調査である（表1）。

## 調査時期

教師調査 1999年2月～3月

生徒調査 1999年7月。

## 調査項目

教師調査は、自分のまわりの学校で起こっている「学級・授業の荒れ」の割合、荒れている生徒の様子と教師像、調査対象者自身の「荒れ」の体験、授業中の生徒の態度、教師としての満足感、「荒れ」の原因と対応策、教師の悩み、努力していること、忙しさ、健康状態とストレスなど。

生徒調査は授業中の様子、授業中の生徒の態度や行動に対する生徒自身の意識、「授業が騒がしくて中断される」割合と中断される教師のイメージ、学校内の様子、自己像、進路など。

表1 サンプル数

(人)

		男性	女性	合計
教師	小学校	170	347	520
	中学校	318	249	569
中学生		193	188	381

\*性別無記入 小学校教師3名 中学校教師2名

## 3. 調査結果

本調査では、「学級崩壊・授業崩壊」という言葉を避けて、「学級・授業の荒れ」の状

況を3段階に仮説を立てた。なお、小学校は「学級担任制」であるから「学級の荒れ」、中学では「教科担任制」であるので「授業の荒れ」と理解し、「学級・授業崩壊状況」を掘り下げるとにした。

第1段階は「学級経営・授業が何となくうまくいかないことを仮に『学級・授業の崩れ』」、第2段階は「生徒の気持ちが先生から離れてしまうことを『学級・授業の乱れ』」、第3段階では「生徒が反発して授業が成り立たないことを『学級・授業の荒れ』」と段階的にとらえ、「荒れ」の状態を探っていくことにした。

まず、表2は、「荒れ」を客観的にとえるため、「自分のことではないが、自分のまわりの学校で授業ができない状態の教師がいたい何割くらいいるか」自由記述してもらった結果の平均値である。

中学校では「何となく授業がうまくいかない『授業の崩れ』」、「生徒の気持ちが先生から離れる『授業の乱れ』」、「生徒が反発して授業が成り立たない『授業の荒れ』」がみられる割合は、小学校のほぼ2倍となっており、中学校の授業が困難な様子が伺える。

表2 まわりの先生は学級・授業の荒れをどのくらい体験していると思うか ×小学校・中学校 (割)

	小学校	中学校
1. 学級・授業の崩れ (何となく学級・授業がうまくいかない)	1.6割	3.1割
2. 学級・授業の乱れ (子どもの気持ちが先生から離れる)	1.3	2.5
3. 学級・授業の荒れ (子ども・生徒が反発して授業が成り立たない)	0.8	1.4

(平均)

では、「荒れ」を起こしている教師には共通した特徴があるのだろうか。『授業ができない、学級が荒れている』担任や教科担当の特徴的な傾向を示したのが表3である。表は省略したが、荒れているクラスの生徒では、

「アメ・ガムをこっそり食べている」割合が中学56.3%、小学校35.9%と目を引く程度である。担任や教科担任像では、特に中学校で、「生徒を叱れない」「社会性がない」「自分勝手」「ひいきしたり不公平な扱いをする」「授業中、生徒がしゃべっていても注意しない」「何でもいい加減」な教師が多く指摘され、生徒の気持ちを理解できない教師が「荒れ」を起こしているとみている。

表3 『授業ができない、学級が荒れている』クラスの担任や教科担当×小学校・中学校

	小学校 (%)		中学校 (%)	
	とてもあてはまる	わりとあてはまる	とてもあてはまる	わりとあてはまる
1. 生徒の気持ちがわからない	34.9	32.1	39.7	29.5
2. 生徒を叱れない	29.1	29.5	39.2	30.8
3. 社会性がない	58.6	23.5	70.0	29.3
4. 自分勝手	16.2	23.5	33.1	29.3
5. ひいきしたり、不公平な扱いをする	39.7	21.6	62.4	29.6
6. 問題がおこると生徒の責任する	16.6	21.6	32.8	29.6
7. 授業中、生徒がしゃべっていても注意しない	38.2	23.1	62.4	28.5
8. 生徒をあまりほめない	19.5	23.1	32.3	28.5
9. 何でもいい加減	42.6	23.1	60.8	29.0
10. 女子だけ、男子だけ強く叱る	26.5	23.1	29.8	29.0
11. 授業以外の仕事が多く、自習が多い	49.6	34.3	58.8	37.3
12. きまりに厳しすぎる	15.9	28.6	25.4	27.3
13. まじめで熱心すぎる	50.2	18.8	62.7	25.8
14. 自由時間ばかりとる	21.4	18.8	23.0	27.3
15. 忘れ物をすると厳しく叱る	50.0	25.8	50.3	25.8
16. 運動が苦手	10.9	21.7	20.2	25.8
17. 宿題をたくさん出す	29.7	24.2	46.0	23.6
	12.9	17.0	18.4	23.6
	37.1	17.0	42.0	19.9
	7.2	23.1	31.1	17.1
	8.4	23.1	8.1	17.1
	31.5	21.7	25.2	17.1
	10.4	21.7	5.0	17.1
	32.1	16.8	22.1	14.3
	4.1	16.8	3.7	14.3
	20.9	20.4	18.0	11.4
	3.2	20.4	3.1	11.4
	23.6	10.5	14.5	7.0
	3.0	10.5	2.9	7.0
	13.5	11.9	9.9	5.4
	2.6	11.9	0.4	5.4
	14.5		5.8	

表4では、調査対象者自身の「授業の荒れ」体験を示した。中学校では、「何となく授業がうまくいかない『授業の崩れ』」では、教師の61.7%が「2回以上ある」と答えている。次の「生徒の気持ちが先生から離れる『授業の乱れ』」は46.9%、最も深刻な「生徒が反発して授業が成り立たない

『授業の荒れ』を「2回以上」体験している者は17.3%、「1度だけある」を合わせると26.0%。小学校と比較すると、「崩れ」や「乱れ」が「2回以上ある」割合は、中学校の数値が大きく上回るが、「1度だけある」と答えた教師は小学校に多い。このことは中学校ではすでに長くこうした「荒れ」の状態があったこと、小学校では、近年、言われるように「荒れ」が急激に出現していることが推測できる。

表4 学級・授業の荒れ体験×小学校・中学校 (%)

	1度もない	1度だけある	2~3回ある	4~5回ある	それ以上ある
学級の崩れ (小学校)	36.4	38.7	22.3	1.8	0.8
授業の崩れ (中学校) 何となく授業がうまくいかない	30.5	7.8	27.6	8.7	25.4
学級の乱れ (小学校)	67.5	23.5	7.5	1.1	0.4
授業の乱れ (中学校) 生徒の気持ちが先生から離れている	42.1	11.0	25.4	8.4	13.1
授業の荒れ (中学校) 生徒が反発して授業が成り立たない	74.0	8.7	8.9	3.1	5.3

次に、授業中の生徒の様子から「授業の荒れた」状況を探ってみる。表5は、中学校の教師が自分の授業中にみられる生徒の学習態度や行動（「よく+ときどきある」割合）と「荒れ」の3段階「授業の崩れ」「授業の乱れ」「授業の荒れ」の「1度もない」群と「2回以上ある」群との関連を示した。

表によれば、「授業の崩れ」では、「授業が始まって教科書やノートを出さない」「手紙や交換日記を書いている」「内職をする」「私語が多く授業が中断される」「消しゴムを小さくして投げる」「友だちの発言をなじったり笑ったりする」項目があげられる。次に「授業の乱れ」では、「崩れ」の項目に加え「居眠りをする」「言ったことのあげあしをとる」「注意や叱責に反抗する」「マンガや小説を読んでいる」「指示や質問を無視する」「授業を聞いても何の意味もないと言われる」がみられ、「授業の荒れ」では、更に「授業中、理由もなく教室の外にでたがる」「授業が始まって教室を勝手に出

入りしている」「授業中、廊下やグラウンドをうろうろしている」「紙飛行機を作って教室の窓から飛ばす」が加わる。そして10%以上差のある項目を拾い出すと、「授業の荒れ」では全ての項目が上げられる。

このように、授業の荒れを3段階に分類すると、第1段階の「崩れ」では、多くの教師が経験しているように、「私語をする生徒」が多い。それより進んで第2段階の「乱れ」では、「教師を無視」するなど教師に反抗的な態度が加わる。第3段階の「荒れ」では、それを超えて、教室を出ていくことや廊下やグラウンドでウロウロしていたり、後ろの方に集まって寝ころんだりの状況になる。

表5 授業中の生徒の様子×授業の荒れ体験 (中学校) (%)

	授業の崩れ		授業の乱れ		授業の荒れ	
	1度もない	2回以上ある	1度もない	2回以上ある	1度もない	2回以上ある
1. 授業が始まって教科書やノートを出さない	41.5 <<	74.4	45.2 <<	76.9	55.4 <<	87.2
2. 居眠りをする	46.1 <	64.9	47.6 <<	67.6	54.6 <<	71.3
3. 手紙や交換日記を書いている	31.9 <<	55.7	32.9 <<	59.0	39.9 <<	64.9
4. 内職 (他の教科の勉強) をする	27.8 <<	53.9	26.9 <<	58.2	37.7 <<	67.0
5. 私語が多く、授業が中断される	20.1 <<	56.1	23.9 <<	60.9	32.7 <<<	71.3
6. 消しゴムを小さくして投げる	23.1 <<	46.9	23.4 <<	51.9	29.0 <<	58.5
7. 友だちの発言をなじったり笑ったりする	14.6 <<	35.9	16.3 <<	39.4	22.5 <<	46.8
8. 言ったことのあげあしをとる	10.4 <	23.0	8.8 <<	28.9	11.1 <<	40.4
9. 注意や叱責に反抗する	6.1 <	23.7	5.7 <<	28.2	9.4 <<<	46.8
10. マンガや小説を読んでいる	13.9 <	25.1	8.8 <<	30.0	13.6 <<<	43.6
11. 指示や質問を無視する	4.3 <	15.7	2.3 <<	20.0	4.0 <<<	35.1
12. 「授業を聞いても何の意味もない」と言われる	3.7 <	19.1	4.0 <<	22.3	7.9 <<	32.9
13. アメ、ガムを食べている	5.5	13.1	4.9 <	14.9	5.2 <<	27.7
14. 授業中、理由もなく教室の外に出たがる	4.9 <	15.7	5.7 <	16.8	6.1 <<	32.0
15. 授業が始まって、教室を勝手に出入りしている	3.1 <	16.5	4.9 <	17.9	4.7 <<<	36.1
16. 授業中、廊下やグラウンドをうろうろしている	1.2 <	11.5	3.1	12.5	3.7 <<	23.4
17. 紙飛行機を作って教室の窓から飛ばす	2.4	10.6	2.7 <<	13.3	3.5 <<	24.4
18. 授業中、無断で保健室に行く	3.0	9.5	4.0	10.2	3.7 <	19.2
19. 教室の後ろの方の床に寝ころんでいる	1.2	8.0	1.8	9.0	2.5 <	12.8
20. 「こんな授業を聞きたくない」など大声で叫ぶ	0.6	7.1	0.4	8.6	1.5 <	14.9
21. 教室の後ろで集まって話をしている	1.8	8.3	2.7	8.6	1.7 <	18.1
22. 廊下を通る先生に教室から声をかける	1.2	4.7	0.9	6.3	0.7 <	14.0
23. 携帯電話やポケベルが鳴る	0.6	4.1	0.4	5.1	2.0	7.4
24. 授業中、ウォークマンなどで音楽を聴いている	1.2	5.4	0.9	5.9	0.7 <	13.8

「よく+ときどきある」割合  
 <10% <<20% <<<30%の以上差

次に、生徒は「荒れ」をどのようにみているのか、生徒調査の結果から探っていく。表6は、「授業の荒れ」の教師調査の3段階の項目を生徒の言葉と感覚でたずねた。即ち、「生徒の気持ちが何となく授業に向かない、つまらない」を教師調査の「荒れ」の第1段階「授業の崩れ」、「生徒と先生の気持ちが通じ合えず授業もガラガラ生徒もしらけている」は第2段階「授業の乱れ」、そして、「私語や教室内を立ち歩く生徒、先生に反発したり勝手なことをしている生徒が多く授業ができない」を第3段階の「授業の荒れ」とした。

表によれば、「生徒の気持ちが何となく授業に向かない、つまらない」と「すでにそうになっている」と答えた生徒は15.3%、「生徒と先生の気持ちが通じ合えず授業もガラガラ生徒もしらけている」14.6%、そして、「私語や教室内を立ち歩く生徒、先生に反発したり勝手なことをしている生徒が多く授業ができない」「授業の荒れ」状況は17.7%が「すでにそうになっている」と答えている。「多分なると思う」と「荒れ」を予想する割合7.1%を合わせると25%に達する。

では、生徒たちが考える授業が「荒れた」とは、どのような状況なのか。授業中の生徒の態度や行為からみてる。表7は、生徒調査の「授業の荒れ」の3段階と授業中の生徒の様子である。「授業が成り立たない＝授業の荒れた」状況とは、「先生のあげあしをとる」「先生の注意や叱責に反抗する」「先生の指示や質問を無視する」「マンガや小説を読んでいる」「紙飛行機を飛ばす」「ウォークマンで音楽を聴いている」と、教師に反発し、教室内でルールを無視し勝手に振る舞っている生徒の姿がみられる。この様子は教師調査の第3段階「授業の荒れ」の状況と重なる。

尚、当日詳しい資料を配布する。

表6 「授業の荒れ」のようす（生徒調査）

(%)

	すでにそう なっている	多分なる と思う	もしかすると なると思う	全然なら ないと思う
1. 生徒の気持ちが何となく授業に向かない、つまらない	15.3	28.6	37.6	18.5
	43.9			
2. 生徒と先生の気持ちが通じ合えず、授業がガラガラし生徒もしらけている	14.6	23.1	33.1	29.2
	37.7			
3. おしゃべりや教室内を立ち歩く生徒、先生に反発したり勝手なことをしている生徒が多くて授業ができない	17.7	7.1	10.3	64.9
	24.8			

表7 授業中の生徒の様子×授業の荒れ（生徒調査）

(%)

	全体	生徒の気持ちが何となく授業に向かない、つまらない	先生と気持ちが通じ合えず授業がガラガラしている	私語や教室内の立ち歩き、先生への反発で授業ができない
1. 注意されてもおしゃべりをやめない	59.3	66.3	68.3	74.5
2. 授業が始まって教科書やノートを出さない	58.8	72.3	77.3	75.5
3. 友だちの発言をなじったり笑ったりする	50.4	57.8	60.0	59.8
4. 机の上を影ったり落書きをしたりする	46.6	61.1	61.7	69.9
5. 消しゴムを小さくして投げる	43.7	56.2	55.5	62.4
6. 教室内を立ち歩く	42.0	53.6	56.0	62.8
7. 先生の言ったことのあげあしをとる	41.9	52.5	55.7	65.6
8. トイレや保健室に行く	40.5	50.0	49.6	57.4
9. 先生の注意や叱責に反抗する	31.8	48.1	50.0	62.4
10. マンガや小説を読んでいる	31.1	48.4	48.9	59.8
11. 先生の指示や質問を無視する	26.3	43.5	45.7	57.6
12. アメやガムをこっそり食べている	25.2	37.7	39.0	54.8
13. 塾の勉強をしている	21.6	30.0	33.8	35.9
14. 紙飛行機を飛ばして遊ぶ	18.8	28.4	30.0	39.8
15. ウォークマンで音楽を聴いている	14.5	24.7	25.5	36.6
16. 教室の後ろの方で寝ころんだり座ったりしている	10.1	13.3	12.8	18.1

授業中の生徒の様子=「とてもよく+わりと+ときどきしている」割合

授業の荒れ=「すでにそうになっている+多分なると思う」割合  
最大値0-最小値 ~ 10%以上の差